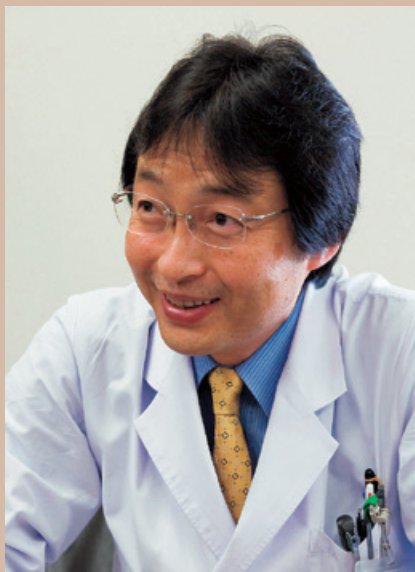


● 教室(診療科)の特色 ●

女性のトータルサポートを目指して、不妊をはじめとする生殖内分泌学から正常妊娠・様々な合併症を伴うHigh risk妊娠・分娩を取り扱う周産期学、子宮筋腫・卵巣嚢腫や初期子宮癌に対する内視鏡下手術、子宮癌・卵巣癌をはじめとする婦人科腫瘍学、更年期障害、骨粗鬆症、動脈硬化、尿失禁など女性予防医学／排尿・骨盤再建学と多岐にわたる分野を幅広く、そして深く臨床、研究に取り組んでいる教室です。

当院では、MFICU6床、産科15床、婦人科40床の計61床を有しています。また周産期センター開設以来、地域周辺医療機関の搬送病院(大阪府母体救急搬送システム:OGCS)として年間約170件と大阪府下でもトップクラスの緊急母体搬送を受けており、様々な合併症を伴うハイリスク妊娠・分娩の症例の管理・治療を学ぶことができます。婦人科においては、子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍など良性腫瘍の約9割の年間約200例を内視鏡下手術(腹腔鏡下手術・子宮鏡下手術)で対応しています。また、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌など婦人科悪性腫瘍では、年間200例を超える全国上位の症例数を誇り、骨盤外科医としての解剖や知識、技術を習得でき、婦人科腫瘍の特徴である、診断から手術療法、抗癌剤治療や放射線治療などを組み合わせる集学的治療を学ぶことができます。



大道 正英(おおみち まさひで)教授(科長)

■専門分野

婦人科腫瘍学、婦人科内分泌学

■主な学会／専門医資格

日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍学会専門医、癌治療認定医

■研究課題

- ・人工エクソソームによる新たな子宮頸がん治療法の開発
- ・卵巣静脈血中のエクソソーム測定による癌微小環境制御機構の解明
- ・子宮癌の個別化治療に向けたセンチネルリンパ節の同定に関する研究
- ・体性幹細胞を用いた新しい女性生殖器官癌治療法及び組織再生治療法の開発
- ・妊婦高血圧症妊娠、および妊娠高血圧腎症妊娠における血管内皮機能異常と治療による改善効果の検討
- ・正常妊娠と周産期合併症を有する妊婦における、生活習慣の違いと多価不飽和脂肪酸の値の変化についての検討
- ・子宮内膜症および子宮内膜症関連卵巣癌の病態解明を目的とした遺伝子発現解析
- ・卵巣機能低下不妊患者における経皮テストステロン前処置療法の有用性に関する検討
- ・婦人科悪性腫瘍に対する治療および生活習慣病・骨密度への影響に関する疫学研究

● 産婦人科の最近の取り組み ●

婦人科・腫瘍科

当科の取り組みとして低侵襲悪性腫瘍手術を目的とした子宮体癌、子宮頸癌に対して腹腔鏡下手術を行っています。全国の大学病院の中でもトップクラスの症例数があります。さらに2016年からは子宮悪性腫瘍に対してダヴィンチによるロボット支援下手術も行っています。さらに様々な臨床研究を行っており日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)など全国的な臨床研究グループにも参加しています。

産科生殖医学科

ハイリスク妊娠(合併症妊娠、多胎妊娠、切迫早産、前期破水、妊娠高血圧症候群、前置胎盤など)やハイリスク分娩・産褥に対応するため、分娩監視装置、超音波診断装置、呼吸循環モニター、人工呼吸器などの機器を備え、主として産科のスタッフが24時間体制で治療を行う設備であるMFICU(母体胎児集中治療室)を平成23年に新規開設しました。それにより安全・安心で充実した受け入れ体制が整ったことから、今後も更に母体搬送依頼が増えると思われ、出来る限り受け入れる事ができる様、カンファレンスを随時行い、スタッフ一同連携し頑張っています。不妊症患者の不妊治療では、高度生殖補助医療まで行っています。また、若年男女がん患者の妊孕能温存治療として、男性がん患者では精子凍結保存、女性がん患者では卵子・胚凍結保存も積極的に行っています。



MFICU(母体胎児集中治療室)

● 診療科の概要・特徴 ●

産婦人科学教室では、不妊、周産期、内視鏡、腫瘍、女性予防医学／排尿・骨盤再建のグループに分けているのが特徴です。それぞれの分野の講師以上のスタッフの管理のもと、グループ毎にカンファレンスを行い診療・研究に切磋琢磨しています。研究の進捗状況は、毎月開かれる教室員全体のリサーチカンファレンスで、グループ毎に発表し議論しています。また、各グループ間の垣根をなくし、興味のあるグループの研究やカンファレンスにも参加できるようにし、様々な分野に対し興味を持ってもらえるようにしています。そして、それぞれの分野のサブスペシャリティの育成も大変重要で、生殖医療専門医、周産期専門医、腹腔鏡技術認定医、婦人科腫瘍専門医、臨床細胞学会指導医等の専門医が指導医として、後輩の指導を行っています。また、教室の雰囲気は明るく、全体が家庭的です。毎週行われる症例検討会では、時々厳しい質問や意見が飛びますが、教室員全員が各症例に対して活発に議論しています。

■ 連絡先：大阪医科薬科大学産婦人科学教室 TEL:072-683-1221
 ■ ホームページ：<https://www.ompu.ac.jp/u-deps/gyn/>

● 教室(診療科)指導医・上級医 ●

氏名(職掌)	専門医	専門分野
林 正美(准教授)	産婦人科専門医、生殖医療専門医	生殖内分泌学
藤田太輔(講師)	産婦人科専門医、周産期専門医	周産期医学
恒遠啓示(講師)	産婦人科専門医、婦人科腫瘍専門医、癌治療認定医、内視鏡技術認定医	婦人科腫瘍学
佐々木 浩(講師)	産婦人科専門医、女性ヘルスケア専門医	女性ヘルスケア、婦人科腫瘍学
田中良道(講師(准))	産婦人科専門医、婦人科腫瘍専門医、がん治療認定医、内視鏡技術認定医	婦人科腫瘍学
田中智人(講師(准))	産婦人科専門医、婦人科腫瘍専門医、がん治療認定医、内視鏡技術認定医	婦人科腫瘍学
藤原聡枝(講師(准))	産婦人科専門医、婦人科腫瘍専門医、がん治療認定医、内視鏡技術認定医	婦人科腫瘍学
他助教7名		



豊富な婦人科悪性腫瘍手術を経験することができる



指導風景

初期研修プログラムの特徴

産婦人科必修研修では臨床医に必要な全般的な医療知識・技能を学びます。そして産婦人科診療の基礎と産婦人科救急の対応など下記到達目標を達成するために、各領域での担当医として治療に関わってもらうことで、基本的な産婦人科の知識を学びます。また、必修研修に加えて産婦人科研修を選択(2か月以上)した場合や産婦人科重点コースでは基本的な産科的技術・知識習得に加えて、より実践的な手技を習得することにより後期研修(産婦人科専門医)へつながる研修を行います。

研修内容と到達目標

<1年目>

臨床医として必要なプライマリケアとして、点滴挿入や静脈内注射、全身の理学的診察、血液検査データの判読、術前検査、術後管理などを担当医として、指導医の下で学ぶことが出来ます。さらに、産婦人科領域のプライマリケアとして、女性特有の月経周期に関わる症状の問診、内診の仕方、経腔超音波の使い方を学び、婦人科診療の技能を習得出来る。また、分娩に関わる介助や産科救急への対応について、担当医として指導医のもとで研修します。また、当直を指導医のもとで行うことで、産婦人科の救急対応についても研修することが出来ます。生殖医療においては、正常女性の内分泌的ホルモン環境の基本知識を身につけ、不妊症例の診断と各種検査(子宮卵管造影、内視鏡検査、精液検査、卵巢機能検査)の基礎を学びます。産科ではPrimary careとしての分娩介助の習得および産科救急疾患の

知識と対応を習得します。婦人科良性腫瘍、良性疾患(子宮外妊娠、付属器炎、内膜症、不妊症)においては、当科では約9割の症例で内視鏡下手術を行っています。実際の内視鏡下手術として、腹腔鏡下手術、子宮鏡下手術を経験することが出来ます。これらの手術手技を学ぶために、教室には腹腔鏡下手術シュミレーション機器を置き、常時手術の練習を行っています。腹部手術の基本手技から解剖に則った骨盤外科手技を習得します。子宮頸癌、子宮体癌、卵巢癌における、術前化学療法、手術療法(先進医療として認可された腹腔鏡下子宮癌手術、広汎子宮全摘出術、傍大動脈リンパ節郭清術など)、術後化学療法、放射線療法など集学的治療を学び、癌治療における全般的な知識と治療経験を積むことが出来ます。症例検討会では、担当した手術症例の報告と、新規症例のプレゼンテーション、CT、MRIの読影、病理標本のプレゼンテーションを行います。



カンファレンス記録集

<2年目>

- ①臨床医として必要な女性診療科における臨床的知識・技能を修得し、全年齢通した女性の精神・身体両面からの健康管理を学びます。
- ②当院では、年間170数例の大阪府下でもトップクラスの母胎緊急搬送症例があり、研修中には連日多くの合併症妊娠や産科救急疾患を経験することが出来、これらの知識の習得と、管理、診療の実際を学ぶことができます。
- ③胎児期からの診断と管理のために、胎児スクリーニングを取り入れています。これらの専門的知識を学ぶことができ、また関連施設(国立循環器病センター周産期治療部)との連携による新生児管理も学ぶことができます。
- ④不妊疾患として、女性の内分泌的ホルモン環境を理解し、不妊治療の実践として、人工授精、体外受精や顕微授精など最先端の生殖医療の技術を学ぶことができます。
- ⑤婦人科腫瘍では、現在では良性腫瘍9割に対しては、低侵襲の手術として年間約200例の腹腔鏡下手術・子宮鏡下手術をおこなっており、内視鏡下手術の知識と技術の習得ができます。
- ⑥悪性腫瘍においては、年間200例を超える全国トップレベルの症例数を誇り、悪性腫瘍手術における骨盤外科医として、その解剖に則った手術手技を習得できます。また婦人科腫瘍の特徴である、手術療法、抗癌剤治療、放射線治療などを組み合わせる集学的治療を学べ、実際の受け持ち医として治療に関わることができます。
- ⑦女性のトータルヘルスケアを全般的に学ぶことができ、更年期障害、高血圧、高脂血症、動脈硬化、骨粗鬆症、排尿障害、尿失禁、性器脱などに対して、動脈硬化を予防することや骨粗鬆症による骨折を予防することに重点をおくことで、各種症状に応じた治療アルゴリズムに基づいた薬物療法や骨盤再建における手術療法など女性予防医学／排尿・骨盤再建学を学ぶことができます。
- ⑧重点コースでは、①不妊 ②周産期 ③内視鏡 ④腫瘍 ⑤女性予防医学／排尿・骨盤再建学 ⑥産婦人科全般 の6コースより、個々の研修医とのマッチングの上研修します。さらにより専門的な分野を進めたい場合には、2年目研修医から大学院へ入学することができます。

週間スケジュール

月曜日	周産期カンファレンス、外来・病棟(緊急搬送、分娩、化学療法)、周産期・婦人科レビュー、ミニレクチャー(腫瘍・不妊・内視鏡・周産期・骨盤外科／更年期女性予防)、総回診
火曜日	手術、外来・病棟(緊急搬送、分娩、化学療法)
水曜日	腫瘍カンファレンス・外来・病棟
木曜日	手術、外来・病棟(緊急搬送、分娩、化学療法)
金曜日	外来・病棟、抄読会、不妊カンファレンス、術前・術後症例検討会、
土曜日	手術、外来・病棟(緊急搬送、分娩、化学療法)



術前・術後症例検討会

大阪医科薬科大学産婦人科研修プログラム(新専門医制度)

大阪医科薬科大学産婦人科研修プログラムの概要

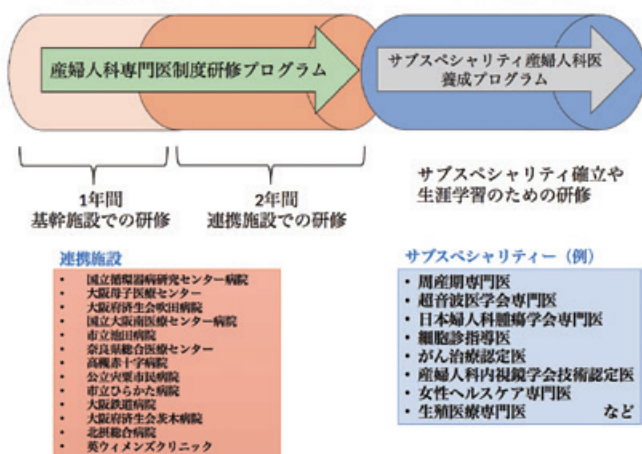
大阪医科薬科大学専門研修コースでは大阪医科薬科大学医学部附属病院産科婦人科を基幹施設とし、連携指導施設とともに医療圏を形成して専攻医の指導にあたります。これは専門医養成のみならず、地域の安定した医療体制をも実現するものである。さらに、指導医の一部も施設を移る循環型の医師キャリア形成システムとすることで、地域医療圏全体での医療レベルの向上と均一化を図ることができ、これがまた、専攻医に対する高度かつ安定した研修システムを提供することにつながります。

研修は、原則として、大阪医科薬科大学病院およびその連携病院によって構成され、専攻医指導施設群において行います。研修の順序、期間等については、個々の産科婦人科専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、大阪医科薬科大学産科婦人科研修プログラム管理委員会が決定します。

専門研修施設群



専門医制度研修プログラムとその後のサブスペシャリティ研修の概要



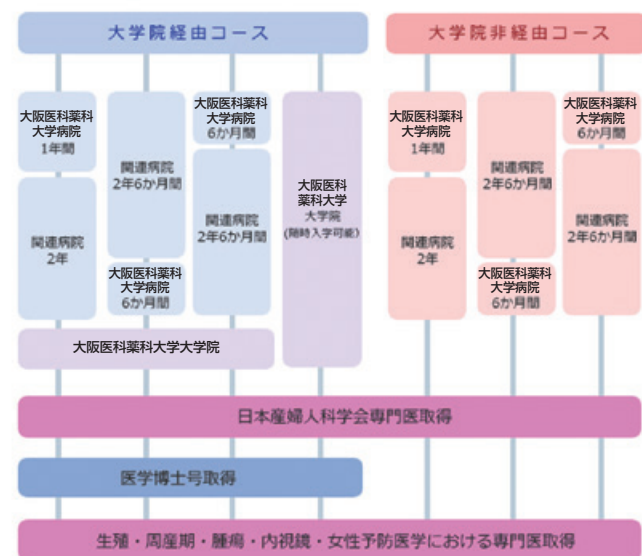
大阪医科薬科大学産婦人科研修プログラムの具体例

産婦人科専門医養成コース: 大阪医科薬科大学病院1年間と専攻医指導施設において2年間の合計3年間で専門医取得を目指すプログラムであります。基幹施設研修を開始する研修コースを基本とし、周産期重点コース、婦人科腫瘍重点コース、生殖医学重点コースなどは個々の専攻医に希望に基づいて変更することが可能です。また、大阪医科薬科大学病院産科婦人科専門研修プログラムでは、連携施設から研修を開始する研修コースを設けており、個々の専攻医の希望に応じたきめ細かい研修プログラムを作成することが可能です。

産婦人科専門医大学院研修コース: 大阪医科薬科大学病院で研修をしながら、大学院にも在籍し、専門医取得と同時に医学博士号を取得するためのプログラムです。

女性医師支援研修コース: 女性医師で結婚しているために研修に十分時間がとれない場合のプログラムであり女性医師の子育て支援のため、院内保育利用しながら、日勤帯を基本とした研修プログラムを個々の女性医師専攻医の希望に合わせて作成します。研修期間は、3年を基本としますが、研修進捗状況に合わせて延長も考慮して変更することが可能です。

復帰支援研修コース: 妊娠・出産などで一時的に職場を離れた場合の復帰を支援するプログラムです。女性医師支援研修コースと同様に日勤帯を基本とした研修プログラムを個々の女性医師専攻医の希望に合わせて作成します。研修期間は、3年を基本としますが、研修進捗状況に合わせて延長も考慮して変更することが可能です。



研修内容と到達目標

研修では多くの症例を幅広く経験することが重要です。当院では、正常分娩を始め、府下トップクラスの母胎搬送症例から合併症妊娠・分娩の管理などを経験することが出来ます。

さらに、悪性腫瘍においては、全国トップレベルの症例数を誇り、悪性腫瘍手術における骨盤外科医として、その解剖に則った手術手技を習得し、専門医に必要な手術症例の助手や執刀を行います。また婦人科腫瘍の特徴である、手術療法、抗癌剤治療、放射線治療などを組み合わせる集学的治療を学ぶことが出来、実際の受け持ち医として治療を行います。

良性腫瘍においては、年間約200例の腹腔鏡下手術・子宮鏡下手術を行っており、内視鏡下手術の知識と技術の習得を行います。中高年女性のトータルヘルスケアを目指した診療を全般的に学ぶことが出来、動脈硬化や骨粗鬆症による骨折などを防ぐための薬物療法や骨盤再建における手術療法を習得します。不妊疾患として、女性の内分泌的ホルモン環境を理解し、不妊治療の実践として、人工授精、体外受精や顕微授精など最先端の生殖医療の技術を学ぶことができます。

- ・臨床医として必要な女性診療科における臨床的知識・技能を修得し、全年齢通した女性の精神・身体両面からの健康管理を学びます。
- ・当院では、年間170数例の大阪府下でもトップクラスの母胎緊急搬送症例があり、研修中には連日多くの合併症妊娠や産科救急疾患を経験することが出来、これらの知識の習得と、管理、診療の実際を学ぶことができます。
- ・胎児期からの診断と管理のために、胎児スクリーニングを取り入れています。これらの専門的知識を学ぶことができ、また関連施設(国立循環器病センター周産期治療部)との連携による新生児管理も学ぶことができます。
- ・不妊疾患として、女性の内分泌的ホルモン環境を理解し、不妊治療の実践として、人工授精、体外受精、顕微授精など最先端の生殖医療の技術を学ぶことができます。
- ・婦人科腫瘍では、現在では良性腫瘍9割に対しては、低侵襲の手術として年間約200例の腹腔鏡下手術・子宮鏡下手術をおこなっており、内視鏡下手術の知識と技術の習得ができます。
- ・悪性腫瘍においては、年間200例を超える全国トップレベルの症例数を誇り、悪性腫瘍手術における骨盤外科医として、その解剖に則った手術手技を習得できる。また婦人科腫瘍の特徴である、手術療法、抗癌剤治療、放射線治療などを組み合わせる集学的治療を学ぶことができ、実際の受け持ち医として治療に関わることができます。
- ・女性のトータルヘルスケアを担う産婦人科医として、中高年女性のトータルヘルスケアを全般的に学ぶことができ、更年期障害、高血圧、高脂血症、動脈硬化、骨粗鬆症、排尿障害、尿失禁、性器脱などに

対して、動脈硬化を予防することや骨粗鬆症による骨折を予防することに重点をおくことで、各種症状に応じた治療アルゴリズムに基づいた薬物療法や骨盤再建における手術療法など様々な治療を学ぶことができます。

取得できる認定医・専門医

日本産科婦人科専門医(日本産科婦人科学会)
がん治療認定医(日本癌治療学会)
婦人科腫瘍専門医(日本婦人科腫瘍学会)
母体・胎児専門医(日本周産期・新生児医学会)
生殖医療専門医(日本生殖医学会)
細胞診専門医(日本臨床細胞学会)
女性ヘルスケア専門医(日本女性医学学会)
内視鏡技術認定医(日本産科婦人科内視鏡学会)
母体保護法指定医(日本産婦人科医会)
臨床遺伝専門医(日本人類遺伝学会)

参加学会等

日本産科婦人科学会／日本癌治療学会／日本婦人科腫瘍学会
日本周産期新生児学会／日本生殖医学会／日本臨床細胞学会
日本産科婦人科内視鏡学会／日本更年期学会／日本産婦人科医会
日本女性医学学会

主たる教育機関病院

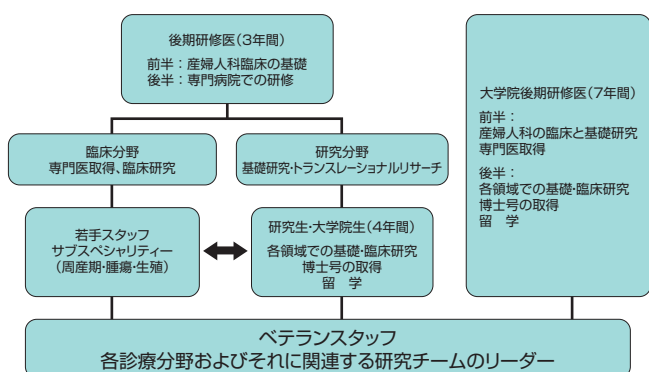
国立循環器病研究センター病院／大阪母子医療センター
大阪府済生会吹田病院／国立大阪南医療センター病院
市立池田病院／高槻赤十字病院／公立中央市民病院
市立ひらかた病院／大阪鉄道病院／済生会茨木病院
北摂総合病院／奈良県総合医療センター



第51回 近畿12大学産婦人科野球大会 優勝

大学院における研究活動

後期研修医の期間内でも、また終了後でもsubspecialityへの道に進むため、専門分野における臨床研究・基礎研究を行います。研究コースには、臨床をしながら自分のペースで博士号の取得を目指す研究生と4年間で取得を目指す大学院コースがあります。研究は、各専門分野のベテランスタッフの指導の下で進めていきます。研究内容によっては基礎の教室との共同研究も行っています。さらに基礎研究のみならず臨床研究にも力を入れており、各領域において、他施設との共同研究や新規開発薬剤の臨床試験にも数多く関わっています。また、この時期には、研究内容に応じて、他の国内施設での研究、臨床研修や海外留学を行っています。



腫瘍グループ

- 卵巣静脈血中のエクソソームについて調査し、癌微小環境制御機構の制御機構について研究している。
- 子宮頸癌の放射線感受性におけるmicroRNA意義について検討し、さらに人工エクソソームを作成することにより、放射線の感受性を高める研究をしています。
- 体性幹細胞を用いた新しい女性生殖器癌治療法及び組織再生治療法の開発
- 婦人科癌の中で最も予後が悪い卵巣癌の key drug であるシスプラチンの薬剤耐性に注目し、その解明を細胞内シグナルレベルまで深めて進めています。
- 癌幹細胞をターゲットとした薬剤耐性、分子標的治療の可能性について検討しています

周産期グループ

- 不育症モデルマウスを用いた難治性不育症に対する新たな治療戦略
- 一骨髄由来血管内皮前駆細胞導入と新しい抗凝固療法の研究一



教室員一同

- 妊娠・分娩・産褥における心機能の検討
- 異常胎盤における骨髄由来血管前駆細胞の関与の解析：PE発症メカニズムを胎盤形成異常の側面から探索するため、胎盤形成過程における血管新生に対する骨髄由来EPC (Endothelial Progenitor Cells) の関与を組織学的及び分子生物学的に解析。
- 妊娠高血圧腎症における血管内皮障害の検討について

不妊グループ

- 妊娠成立における絨毛細胞の機能とその制御について研究を行っています。
- 不妊症患者および抗癌剤治療をうける前の若年女性に対するテストステロンを用いた体外受精治療成績向上および卵巣機能保護に関する研究を行っています。

内視鏡グループ

- 巨大筋腫に対する腹腔鏡下子宮全摘出術
- 卵巣嚢腫に対するreduced port surgery
- 子宮内膜症に対する卵巣予備能温存手術

女性予防医学／排尿・骨盤再建グループ

- 婦人科悪性腫瘍治療における骨密度、動脈硬化のリスクに対する検討として、抗癌剤、放射線治療前後での骨密度、血管内皮機能障害への影響などを検討しています。
- 子宮内膜症治療におけるGnRH analog、ディナゲストによる血管内皮障害への影響を検討し、女性のトータルサポートを目指した予防内科の確立を目指した研究を進めています。
- 性器脱、OAB、排尿障害、尿失禁患者における症状に応じた治療アルゴリズムを作成し治療効果について検討しています。



リサーチカンファレンス



レジデント修了式